

弘前大学新任教員研究基盤支援事業実施要項

1 事業の目的

弘前大学新任教員研究基盤支援事業は、新任教員に対して共用機器基盤センター登録機器（以下、「登録機器」とする。）の使用料を免除することにより、新任教員の研究基盤構築の支援を図るとともに、センターの利用者拡大にも繋がり、ひいては本学の研究支援体制の強化、研究力向上を目的とする。

2 支援内容

本学に新たに着任した教員に対して、登録機器のうち6に定める機器の使用料を免除する。ただし、当該登録機器の使用に伴う消耗品費に関しては、自己負担とする。

3 支援対象者

本事業の支援対象者は、次の各号に掲げる要件を全て満たすもののうち5により申請する者とする。

- (1) 国立大学法人弘前大学職員就業規則第3条第2項に掲げる教員。
- (2) 前号に掲げる教員のうち、本学での在職期間が通算して3年以内の教員。

4 支援期間

本事業における支援期間は、採用された日から本学での在職期間が通算して3年に達する月の末日までとする。

支援期間終了後は、センターが別に定める使用料を支払わなければならない。ただし、年度途中で支援期間が終了する場合の使用料は、当該年度に限り登録機器毎に設定している一定額方式の使用料を12で除した金額に、支援期間が終了した月の翌月から3月までの月を乗じた金額を上限とする。

5 申請方法

申請者は、様式1「新任教員研究基盤支援事業申請書」に記入し、共用機器基盤センター長へ提出する。

6 支援可能機器

本事業で使用可能な機器は別表のとおりとする。

7 その他

- (1) 本事業対象者は、研究論文等においてデータを公表する際は、当該研究論文等に謝辞を明記するよう努める。
- (2) 本事業対象者は、センターが開催するセミナーに積極的に参加するよう努める。
- (3) 使用にあたっては、共用機器基盤センター機器使用内規を遵守する。

別表（第6 関係）

弘前大学新任教員研究基盤支援事業対象機器一覧

機器名称	使用に伴う注意事項
透過型電子顕微鏡 日本電子 JEM-2100	機器使用に際して必要となる消耗備品等は自己負担
電界放出型走査電子顕微鏡システム 日本電子 JSM-7000F、JED-2300F	機器使用に際して必要となる消耗備品等は自己負担
粉末・薄膜 X 線回析装置 Rigaku SmartLab(9kW)	使用前に使用方法について技術職員から訓練を受けること (教員・学生等使用者全員が対象)
DNA 塩基配列決定装置 パナソニック ABIPRISM310-2 外	シーケンス反応キット、及び HiDi formamide は自己負担
円二色分散計 日本分光 J-1100DS	
ガスクロマトグラフ質量分析装置 日本電子 JMS-Q1500GC	機器使用に際して必要となる消耗品費等は自己負担
多目的解析対応型質量分析システム 日立 Nano Frontier LD	
マサイメージング装置 ブルカー autoflex III	
共焦点レーザー顕微鏡 オリンパス FV3000	
赤外・ラマン分光装置 パリアン 670/610-IR	測定時に必要な試薬等の消耗品は、実費負担。ただし、測定を依頼する場合は、消耗品費として 200 円/サンプルを支払う
フーリエ変換赤外分光光度計 日本分光 FT/IR-6100	測定時に必要な試薬等の消耗品は、実費負担。ただし、測定を依頼する場合は、消耗品費として 200 円/サンプルを支払う
電子スピン共鳴装置 ブルカー EMXPlus10/12	利用に伴うカンチレバーなどの消耗品は自己負担
エレクトロンプローブマイクロアナライザー 日本電子 JXA-8230	分析試料は地質試料に限る
オージェ電子分光装置 日本電子 JAMP-9500F	
高精度 3 次元測定レーザー顕微鏡 オリンパス LEXT OLS4000	卒業研究の時期は混雑することがありますので、初回利用で装置取扱の講習が必要な場合は早めにご相談ください
フーリエ変換高分解能核磁気共鳴装置 日本電子 JNM-ECX500R	利用に伴う重溶媒などの消耗品は自己負担
高磁場・高分解能核磁気共鳴装置 日本電子 JNM-ECX500	利用に伴う重溶媒などの消耗品は自己負担
マルチキャピラリー泳動装置 QIAxcel Advanced	
分子間相互作用解析システム オリンパス MF20	
セルソーターシステム BD FACS Aria II セルソーター	消耗品（シース液、ビーズ類、プラスチックチューブ等）は自己負担
ウルトラマイクロトーム Leica EM UC7	機器の修理、消耗品の交換などで費用が発生した場合は実費負担
単結晶 X 線解析装置 R-Axis RAPID II	